



阿賀野川の水資源の豊かさを上流から下流へたどる中から出てくる
過去の歴史の光と影を、あたかもパネル作品上を旅をしているような
気分を体験していただきながら、読み解いていくパネル作品



パネル上で旅行体験!

令和4年度パネル巡回展



阿賀野川の水のゆくえ、光と影をたどる旅

新潟県（制作 あがのがわ環境学舎）～中・上流域の豊かな水、下流域にもたらされる恵み～

阿賀野川流域の水資源・過去の光と影をテーマとしたパネル展を、下記の各施設で開催します。＜観覧無料＞

●パネル巡回展スケジュール

●開催期間 2022. 12/24 ～ 2023. 3/30

展示期間	展示施設	展示時間・備考
12/24(土)～1/5(木)	安田ショッピングセンター ウインディ	9:00 ～ 19:00 1/1(日)休館／1/2(月)・1/3(火)9:00～18:00
1/7(土)～1/16(月)	新潟市秋葉区文化会館	9:00 ～ 21:30 1/10(火)休館
1/18(水)～1/29(日)	新潟市北区文化会館	9:00 ～ 21:00 1/23(月)休館
1/20(金)～1/29(日)	阿賀野市立図書館	9:30 ～ 16:30 1/23(月)休館
2/3(金)～2/14(火)	北方文化博物館 屋根裏ギャラリー	9:00 ～ 16:30 正面受付側から入場
2/3(金)～2/14(火)	NEXT21 アトリウム	8:00 ～ 23:00
2/16(木)～3/9(木)	阿賀町役場鹿瀬支所ロビー	9:00 ～ 16:30 土曜・日曜・2/23(木)休館
2/17(金)～2/27(月)	新潟市東区役所 南口エントランスホール	8:00 ～ 18:00
3/1(水)～3/15(水)	江南区文化会館内 江南区郷土資料館	10:00 ～ 19:00 金曜休館 日曜10:00～17:00
3/11(土)～3/30(木)	道の駅「阿賀の里」	9:00 ～ 16:00
3/17(金)～3/26(日)	ラポルテ五泉 ガレリア	9:00 ～ 22:00

主催: 新潟県 共催: 新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町

企画
お問合せ先

あがのがわ
環境学舎

一般社団法人
あがのがわ環境学舎

〒959-2221 新潟県阿賀野市保田 3866 番地 1 TEL&FAX 0250-68-5424

阿賀野川の恵みや過去の光と影を上流から下流へとたどる



五十島の渡し船(立川小三郎氏提供)

阿賀野川と常浪川

津川の河港

阿賀野川と早出川

満願寺閘門と小阿賀閘門

津島屋の船溜まり

新潟県内を流れる阿賀野川は、阿賀町や五泉市の山地から流れ込む清らかな水によって一気に水量が増え、下流域にさまざまな水の恵みをもたらします。その一方で、過去にはその貴重な阿賀野川の水を有機水銀で汚染して多くの被害を出した新潟水俣病も発生させてしまいました。こうした阿賀野川の恵みや過去の光と影を上流から下流へと順に紹介していくことで、あたかもパネル作品上を旅をしているような気分を体験していただくパネル作品です。

過去の作品(一部)のご紹介

展示を希望される方や団体には、無料で貸し出しております。
詳しくは右記までお問い合わせください。

お問合せ先



一般社団法人
あがのがわ環境学舎

〒959-2221 新潟県阿賀野市保田 3866 番地 1 TEL&FAX 0250-68-5424



貴重な写真でたどる
昭和30～40年代の日本、高度経済成長の光と影
～躍進する日本経済の陰で、四大公害が投げかけた問い～



貴重な写真でたどる
阿賀野川の川業(川筋)が盛んだったあの頃
～川業の隆盛と衰退、新潟水俣病の影、阿賀野川の現在～



貴重な写真でたどる
阿賀野川上流域を巡る近代産業の変遷
明治・大正・昭和～近代日本のたどった光と影の縮図



懐かしい写真で振り返る
阿賀野川・光と影の近代ものがたり
～イザベラ・バードから近代産業まで～



阿賀野川と銅山、ダム、そして高度成長の果てに
～大河と近代産業が織りなした光と影～



阿賀野川と大地が織りなす光と影【後編】
～大河と共に生きてきた半農半漁の地域～



阿賀野川と大地が織りなす光と影【前編】
～大河と共に生きてきた松浜・横越～



阿賀野川と共に生きたあの頃
～風土と歴史が織りなす光と影～



鹿瀬・昭和電工・阿賀野川
～光と影を織りなしてきた歴史～



草倉銅山の光と影
～鉱山に魅せられた人々～



阿賀野川
えとこだプロジェクト
とは？

正式名称「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称「FM事業」)。阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい流域づくり」を目指して始まったプロジェクト。